

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年2月5日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103268
法人名	社会福祉法人恩賜財団済生会支部鹿児島県済生会
事業所名	グループホーム 武岡ハイランド
所在地	鹿児島県鹿児島市小野町2427番地2 (電話) 099 - 283-7231
自己評価作成日	平成29年12月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成30年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・開設時より一貫して「日々の暮らしを安心安全に笑顔で過ぎて頂きたい」そんな思いでスタッフ自らが入りたいと思い、家族や知人に自信を持って勧められるホームを目指しています。
- ・個別支援に重点を置き、その方に合った脳活性のレクリエーション・転倒防止のリハビリ・管理栄養士の指導を受けたバランスの摂れた食事・訪問歯科診療や訪問マッサージなど必要に応じて提供しています。又、その方の生活スタイル(生活歴など)に合わせたケアに取り組み、個別性を重視すると共に協働性も取り入れ、自立支援に向けてゆっくりした時間と空間の中でその日一日を笑顔いっぱい過ごすよう支援しています。
- ・地域行事に出来るだけ参加すると共に、家族交流会を頻回に実施し家族と密に交流を図りながら共に見守っています。
- ・景観の良い環境と清潔で広々とした空間を提供しています。
- ・外部講師による臨床美術や音楽療法を取り入れ脳活性を行う事で、いきいきした時間を過ぎて頂けます。
- ・職員のメンタルヘルスへの取り組みを積極的に行い、スタッフ自ら笑顔で働きやすい環境を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・協力医療機関・訪問看護師と24時間対応の連携ができており、専門医の定期的な往診診療や健康管理を行っている。複数の医療機関と関係を密に結び、疾病の予防や早期発見に努めて利用者が安心して生活できるよう支援している。
- ・臨床美術や音楽療法等で積極的に脳活性に取り組んでいる。
- ・高校生のサマーボランティア受け入れ、ホーム行事への家族・地域住民の参加協力、認知症に関する住民への講話や地域文化祭参加等、地域と良好な連携が保たれるよう努めている。
- ・利用者の嗜好を取り入れながら職員が交代で食事を作り、外食やデリバリーなど食事に変化を持たせ、野菜の下ごしらえや下膳など利用者の持てる機能を引き出しながら楽しい食事支援をしている。
- ・管理者と職員は内部・外部の研修会に積極的に参加、勉強会や資格取得にも励み、接遇対応の質の向上に努めて日々のケアに活かしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ホーム内、事務所に掲示し常に確認できるようにしている。年度末に達成度・反省・次年度の目標等話し合う事で理念についての理解や共有に努めている。	事業所独自の理念を作り、玄関やホール・事務所に掲げ、理念を基に職員は、振り返りを行い年度初めに目標を作り実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域内の行事等出来るだけ参加し、地元の方々との交流に努めている。又、ケアハウス・サ高住の住民やデイサービス利用者とは散歩等で交流を図っている。	地域の文化祭へ作品展示や運動会等、地域行事に積極的に参加している。事業所行事への住民の参加や中学生・高校生のサマーボランティア受け入れ、地域での講話・相談等、継続的な交流ができるように努めている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	年4回発行している広報誌や機関紙で情報提供している。訪問や電話での相談に随時対応している。地域住民への講和を行い啓蒙活動を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>毎月の現状報告、評価や事例紹介等を通じて意見、助言や要望を頂いている。スタッフ会議で情報を伝達共有し、業務の改善やサービスの質の向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議で事業所の現状報告・活動・事故報告を行って、市からの情報や地域の状況交換を行っている。事故報告に対してのアドバイスを貰って、今後のサービス向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>地域包括の職員と運営推進会議等を通し密に連携を図っている。市の窓口担当者や適時情報交換を行っている。又、研修や説明会に参加し助言を頂き協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>市に直接出向いて、書類提出したり必要に応じて相談をしている。電話などで確認もしている。介護相談員からのアドバイスを運営に活かし、連携を密に行っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>年間研修計画で学んでおりスタッフ会議でも伝達研修を行い、全職員が理解を深めている。施錠に関しては立地環境のため安全面に配慮しながら取り組んでいる。入所時、本人ご家族に説明し同意を得ている。</p>	<p>身体拘束廃止委員会を設置し、年間研修計画に沿って勉強会を実施し、拘束をしないケアの理解と実践について共通認識を図っている。言葉遣いも含め利用者の心身に拘束をしないケアについて意見交換をしている。外出したい利用者には職員が寄り添い散歩をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修計画で学んでおり、スタッフ会議でも伝達研修を行い全職員が理解を深めている。日頃の介助や言葉使いに関しても定期的に検討している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	年間研修計画で学び、スタッフ会議時に伝達研修を行い周知するよう取り組んでいる。ご家族の相談に応じたり資料を配布している。実際に利用されている方については各関係者と密に連携を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時や退所時、契約内容の変更時などについては重要事項説明書や事業所の方針に基づき利用者やご家族の不安や疑問点について理解・納得を得られるよう十分な説明を行い同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	常に利用者・ご家族との信頼関係を築くように努めており、感情を表出できるよう支援している。又、毎年実施している満足度調査や市からの相談員派遣の結果を運営に反映させている。	満足度調査や面会時に家族に声かけを行い気軽に意見や要望を出してもらえよう心がけている。食事を利用者と家族が一緒に食べて楽しんでいる。「職員の氏名や顔が覚えられない」との家族の要望を受け、顔写真付きパネルをホールに掲示している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>日常的に職員から意見や提案を聞く機会を設けている。意見を検討し業務改善等に反映させている。又、毎年の契約更新時個人面談やキャリアシートの活用などを行っている。</p>	<p>管理者は気軽に質問や提案・意見を日々のコミュニケーションの中で聞く機会を設けている。車椅子の保管方法や尿失禁に対しての改善等、出された意見や提案は運営やケアに反映している。勤務変更なども職員間で行い働きやすい職場作りをしている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>毎年、職員の個別面談やキャリアシート・アンケート調査を実施し状況把握に努めている。又、年2回の健康診断や予防接種等職場環境・条件の整備に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内の年間計画を立て研修を受ける機会を確保している。又、職員のケアや力量に応じ法人外の研修に参加し伝達研修を行っている。介護福祉・社会福祉士等の資格取得に向けて取り組みを勧めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホームの連絡協議会に参加し研修会や説明会で情報交換など行い連携を図っている。法人内のグループホームとは定期的に交流・意見交換しサービスの質の向上への取り組みを行っている。他施設との連携も図っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前面談時に本人とご家族へ今までの生活歴・これからの生活での不安や要望等を詳しく聴き取り説明を行う事で不安の解消に努め、より良い環境で生活ができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望や問題点などに関してはその都度、本人・ご家族と相談しながら苑でできる事とできない事を説明しながら誠実に関わり信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・家族の思いを受け止め今の状況に応じた支援を提案している。又、必要時は他事業所へのサービス利用の調整依頼等の代行対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事・行事を通してご本人の知恵や経験を学びながら支え合い、家族のように喜怒哀楽を共に行う関係を築いている。趣味や興味を会話の中から引き出し主体的に生活できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や定期的に近況について報告し、ご家族にも状況を理解して頂いている。家族交流会を頻回に実施し、情報交換を密に行い一緒に支える関係作りを築くように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・ヘルパー支援で墓参りや受診や美容院・外食など通っている。又、在宅時に利用していたデイサービスや入居していたケアハウスの住民との交流が途切れないよう行き来ができるよう支援している。	馴染みの友人・知人の面会が多く、面会や訪問が気軽にできるよう、来訪時は快くもてなし、馴染みの関係が途切れないように努めている。同一敷地内にある事業所には知人が多く、関係継続できるように交流している。墓参りや美容室にも家族や職員と出かけたリ、お盆・正月に外泊する利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	趣好や生活歴等を考慮し座る場所など提案している。自由に好きな場所で家事や談話ができる環境作りを行い調整役を務めている。又、入居者同士で互いに支え合う関係も出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による退所者の場合は面会に伺い、必要とする場合は本人・ご家族と継続的に関わり、各関係者と連携図りながらフォローし相談や支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その方の想いを引き出せるように、寄り添ったケアの中で会話や表情から隠れた思いを推し量り、意向の把握に努めている。ご家族や職員からの情報を参考に本人本位に検討している。	ホールでくつろいでいる時や入浴時に会話をして本人の想いを聞いている。ミーティングで本人の思いや意向を職員間で話し合い共有している。意思疎通が困難な場合は、家族から情報を得るようにして本人中心に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時、本人・ご家族から聞き取りを行い、主治医やケアマネ・サービス担当者からの情報把握に努めている。又、入所後のスタッフからの新たな情報を随時把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の暮らし方や身体状態から生活スタイル（食事・排泄・生活習慣等）を知り、本人の出来る事、している事、出来ない事を総合的に把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族と定期的にカンファレンス・モニタリングを行っている。職員・訪問看護師・主治医からの意見を参考に担当者会議などで現状に即した介護計画を作成するよう努めている。	本人本位の話し合いを行い日常の気づきや思いなどを把握している。主治医の意見を取り入れその人らしい現状に即した計画を作成している。毎月モニタリングを行い、6ヶ月毎にカンファレンスで意見や情報交換を行っている。変化が見られた場合は現状に合わせて介護計画の変更を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに毎日の生活状態やバイタル測定、食事と水分、排泄、心身の状況等を記録している。又、必要に応じて引き継ぎ帳を利用しながら、現状に即した介護計画となるように見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院・買い物・理美容等は本人・ご家族の希望に柔軟に対応し、訪問診療・往診・出張美容室等」の利用等行っている。本人・ご家族の状況・要望に応じて柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	協力医療機関へ適時相談し連携を図っている。又、地域の警察や消防等の協力支援体制があり安全に暮らせるよう支援している。民生委員と運営推進会議を通して密に情報交換している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の意向を尊重している。受診は基本、ご家族支援であるが困難時はヘルパーや職員で支援している。訪問診療も多く利用しており、多くの医療機関との関係を密に図っている。	本人・家族の希望するかかりつけ医を聞き支援している。通院は家族や職員が行っている。職員が行った場合は家族へ報告している。整形外科・内科・泌尿器科・循環器科・歯科等、総合的な医療連携ができています。2週間毎の協力医療機関の訪問診療や歯科の訪問診療も受けている。複数の医療機関と関係を密に結んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と医療連携を図り、定期的に健康管理を依頼している。又、毎日の健康チェック時の異常時や必要時は随時相談できる体制を整えている。緊急時等同一建物内にあり、早急な医療処置が可能である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療関係者と情報交換すると共に定期的に面会し状態観察し励ましている。早期退院が可能な際は状況に応じ訪問看護師と連携を図り医療処置を行いながらホームでの生活が送れる体制を作っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に本人、ご家族へ「重度化した場合における（看取り）指針」の説明し同意を得ている。又、必要に応じ本人・ご家族へ随時説明を行うと共に主治医や訪問看護師等と密に連携を図り今後の方針について情報の共有を図っている。	入所時に重度化や終末期に伴う看取りの方針を説明している。重度化や終末期には本人・家族の意向を踏まえ、状態の変化がある毎に本人・家族に説明を行っている。看取りの指針に沿って、安心して納得した最後が迎えられるよう、主治医と連携をはかり関係者全員で支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の殆どが普通救命修了書を習得している。管理者も救命普及員の研修を習得しているため随時職員へ伝達研修をし実践力を身に付けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回消防署の協力を得て防災訓練を入居者の方と共に行っている。苑内でも自主訓練を計画し全職員が避難方法を周知出来るよう取り組んでいる。又、法人内でも緊急連絡網や協力体制を築いている。</p>	<p>年2回消防署の協力と指導を受け、入居者と共に昼・夜間を想定して避難訓練を行っている。自主訓練も数回行い職員の災害対策・意識を高めるようにしている。災害対策用の器具や備蓄においても水・缶詰・インスタント麺類・レトルト食品などを揃えている。緊急通報装置も自動的に連絡が行くように設置している。防災設計図パネルをホールに掲示し、グループ内の協力体制が築かれている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であり人格者として尊重し日々の声かけや支援について努めている。スタッフ会議で尊厳について話し合い全職員がプライバシーや誇りを損ねない支援が行えるよう努めている。	人格の尊重とプライバシーの確保には特に気を配り、馴れ合いにならないように取り組んでいる。わかりやすい言葉を遣い、声かけには本人の気持ちを大切に、さりげないケアを行っている。情報収集や保管にも細心の注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方の分かる力に応じて開かれた質問や閉じられた質問等を取り入れゆっくりした時間の中で自己決定ができ、納得して生活ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、本人のペースを尊重しながら、その日の体調・表情・希望などを参考にゆっくり過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人の趣好に応じ出来ない方は一緒に衣類を選んでいる。訪問理容・毎日の整容時は本人・ご家族の希望に添って化粧や髪を整えるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の意見を参考に季節感を取り入れた献立を作成している。能力に応じ調理・盛り付け・片づけ・味見等行っている。静かな音楽を流しながら職員と一緒に見守りながら食事を取っている。	利用者の嗜好を尊重しながら献立を考え、職員が交代で食事づくりをしている。食前の口腔体操を行ったり、リクエストに応え、ゼリーやよもぎ団子等、利用者と一緒におやつ作りをして食事が楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士の確認を得て献立を作成している。食事・水分摂取を職員間で把握し、必要な入居者に関しては記録を取り個別で支援するよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアへの声かけ・介助を確実にしている。研修に参加し伝達研修を行い全職員が肺炎防止のための口腔ケアの重要性を理解している。必要な方は訪問歯科診療を依頼し助言を得ている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作成し個別の習慣や時間を把握している。必要な入居者の方はトイレに案内し、自立に向けての取り組みを行っている。	排泄チェック表を基に利用者の表情や小さな情報等で排泄パターンを職員全員で共有し、トイレへの声かけ・誘導を行っている。夜はリハビリパンツやパット・ポータブルトイレ等、本人に合わせたトイレ支援を行っている。尿意の意志疎通ができない利用者は、周りに気づかれないように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の状況を記録しており、個別に応じて食材の工夫・オリゴ糖使用や運動・マッサージ等で予防に取り組んでいる。必要時は主治医へ相談し服薬にて調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	毎日入浴が出来るよう用意している。時間帯は一応決めているが、本人の希望や必要性を考慮し、ゆったりと入れるように支援している。	入浴回数と時間帯はある程度決めているが、湯温・時間は本人の希望に合わせている。入浴剤を入れたりゆづ湯を入れて楽しんでいる。入居者の思いや意向を傾聴できるコミュニケーションの場になるよう支援をしている。羞恥心や恐怖心に配慮している。入浴を拒む利用者には時間を変えたり職員を変えたり翌日にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中に活動を提供し生活リズムを整えるよう努めている。空調や照明・清潔なリネン等を整え、好きな時間に安らぎの持てる環境を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による勉強会で服薬への認識を深めている。服薬時は2人確認の徹底で誤薬防止に努めている。症状の変化時は早期に上司・看護師・主治医の指示を仰いで対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味を参考に家事やレク等の提供を行っている。得意分野への提供を行い、楽しみや自信に繋がる様に支援している。苑外レクや外食等入居者の方々と相談しながら決定し気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	その日の天候に応じ可能な場合は散歩など支援している。年間行事を作成し外食や地域への行事に参加している。家族支援により外食やお寺や墓参りなど行っている。	できるだけ外出できる機会を作り近所を散歩して周りの住民と挨拶などしている。年間計画に沿って初詣・水族館・四季の花見・ドライブ等、戸外に出かけるようにしている。家族との外食・買い物・墓参りなどに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・ご家族より希望のある方は金銭管理契約が行えるように作成している。必要時は買い物同行を行い、自立支援ができるよう準備している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯を持参し好きな時にご家族と会話を楽しんでいる。毎年、年賀状や暑中見舞いなど支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい食堂兼居間は台所からの匂いや音が伝わり生活感に溢れている。テレビやラジオの音に配慮し季節の花を常時飾り、季節感を味わっている。空気清浄機や加湿器を設置し空調管理にも努めている。	共用空間は開放的な明るい作りになっている。花が飾られ、壁には行事写真・作品が貼られている。大きな窓からの採光がよく明るい。ユニット間に区切りがない廊下、キッチンオープンで調理風景などが見える。空気清浄機や加湿器もセットされている。昼の間や随所に置かれたソファで気持ちよく暮らしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話したり新聞や雑誌を読んだり思い思いに過している。ホールや廊下にソファや椅子を置き自由に好きな場所で過ごせるように居場所の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・ご家族と相談しながら使い慣れた家具や仏壇等持参し安心感に繋げている。ご家族の写真や飾りや好きな花や本等を持参し楽しみや落ち着いた環境で過ごせるよう支援している。	居室はベッドが設置され、自宅で使い慣れたテレビや家族写真・位牌等、馴染みのものが置かれ、壁には自作の作品が飾られ、縫いぐるみや造花等、心が安らぐ雰囲気と清潔である。本人と相談しながら家具の移動で伝い歩きや介助歩行がスムーズに行くよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の方々がその人らしく過せるように状態に応じ職員間で情報交換しながら安全に快適に生活できるよう工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない